

# はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士:新潟大学医学博士,日本小児科学会認定小児科専門医,日本アレルギー学会認定アレルギー専門医



## 熱性けいれん



### <熱性けいれんとは>

生後 6 カ月から 6 歳くらいまでのお子さんが、熱の上がる直前または熱の上がる時に起こす「ひきつけ」です。6 歳までに 7-10%のお子さんが 1 度はひきつけを起こします。発症のピークは 1 歳で、約 80%は 3 歳までに発症します。熱性けいれんは家族集積性があります。お父さん、お母さんが乳幼児期に熱性けいれんがあった場合には、お子さんは熱性けいれんを起こしやすくなります。熱性けいれんは成長とともに(多くは 3 歳を過ぎれば)なくなるので、心配しないで下さい。



### <ひきつけたときはどうするか?>

- (1)あわてない:ひきつけは数分間で止まります。命にかかわることは、まずありません。
- (2)何もするな:口の中に指や箸を入れない(舌を噛むことはない)。大声で呼んだり体をゆすったり、抑えついたりしない。
- (3)楽な姿勢で:体を横にねかせ、服をゆるめる。
- (4)吐くと危ない:吐きそうなら体ごと横にして、吐いたものがのどにつまらないようにする。
- (5)じっと見る:時計を見て、何分続いているか確かめる。けいれんの様子をよく観察する。



### <ポイント>

\* 発熱時に 1-2 分間で止まる左右対称のひきつけは、ほとんどが熱性けいれんなので、心配は不要です。ただし、熱がないのにひきつけを起こす、発熱時でも何度も繰り返す場合には、てんかんの可能性があります。この場合には、脳波検査が必要になります。御相談下さい。

\* ひきつけを起こしているお子さんを見ていると時間が異常に長く感じられますが、実際はほとんどが 1-2 分以内です。あわてずに、時計で時間を計り、お子さんの様子をよく観察して下さい。

\* 10 分以上もひきつけが続く場合には重積発作の可能性があります。すぐに受診して下さい。



### <熱性けいれんの予防>

けいれんの時間が長かった場合、家族に熱性けいれんの方がいる場合、過去に 2 回以上の熱性けいれんがあった場合などには、ひきつけ予防のダイアップ座薬を使用します。

熱がでたら早めに、ダイアップ座薬を使いましょう。熱が上がりそうな時、38℃以上になりそうな時に(心配なら 37.5℃以上になったら)、1 本目を使って下さい。2 本目は 8 時間後に、3 本目は 1 本目から 24 時間経過後に追加して下さい。

1 本目      2 本目      3 本目      この頃には熱は下がるので、  
▽(8 時間)▽(16 時間以上あける) ▽      3 本目以後は不要なことがほとんどです。

熱性けいれんは熱が上がる時に起きます。グズグズしていると痙攣が起きてしまうので、ダイアップ座薬を迷わずに使用しましょう。熱が上がりきると熱性けいれんは起こりにくくなります。

\* ひきつけ止め(ダイアップ座薬)と解熱剤の座薬を同時に使用する場合には、「ひきつけ止め(ダイアップ座薬)」→(30 分おいて)→「解熱剤の座薬」です。